

2 Cp-5 家政教育におけるサービスマーケティングの取り組み ○ 池田洋子 (桜の聖母短期大学)
一科目「高齢者と共に」の自己点検評価ー 西内みなみ (桜の聖母短期大学)

この研究の目的は、カリキュラムにボランティア学習を取り入れた科目「高齢者と共に」の自己点検評価を行い、そこでの成果をふまえながら、家政教育におけるサービスマーケティングの教授法導入による教育効果を検討することである。桜の聖母短期大学では1年生必修科目「ボランティアワーク」を通して45時間のボランティアトレーニングを実施している。学生がボランティア活動をもっと主体的に自主選択できるようボランティアセンターの必要性が考えられ、1997年4月にボランティアセンターが開設された。地域交流の重要性や体験学習の教育効果が高まるにつれ、2年生に対してもボランティア学習を取り入れた教授法の検討が始まり、科目「高齢者と共に」のカリキュラムに地域交流やボランティア活動が1999年度から取り入れられた。

方法は、科目「高齢者と共に」において、学生が地域実習や施設体験などの体験学習を行い、どのような変容を遂げたのかを、学生の自己評価、学生のレポート、アンケート調査、及び受入先の評価などを総合的に点検評価した。

その結果、カリキュラムに対する満足度、ボランティア体験の満足度、高齢者・地域社会に対する理解度、学習意欲など、受講した学生の自己評価が高く、教育効果が高かったことを示唆する結果となった。今後の課題としては、ボランティア受け入れ先の評価方法の検討などがある。さらに家政教育の他科目においてもサービスマーケティングを取り入れ、どのように展開していくか追求してみたい。